

# 礼拝プログラム

2017年11月26日

司会: 本多兄 奏楽: 西井姉 通訳: 石塚姉

前奏: Prelude

賛美: Hymn

使徒信条: \* Apostle's Creed

アナウンスメント: Announcement

牧会祈祷: Pastoral Prayer

感謝献金: Offering

メッセージ: Sermon

「あなたはわが子、そのことが嬉しい」

You are my child, and I delight in you!

賛美: Hymn

頌栄: Doxology

祝祷: \* Benediction

\*印箇所は起立ですが、起立が困難な方は着席のまままで結構です。礼拝メッセージは英語に訳されません。必要な機器を会堂入口にてお求めください。  
Please feel free to remain seated or sit down when the congregation is asked to stand. The sermon will be translated from Japanese to English. You can pick up a translator device at the entrance of sanctuary.

アッシャー: 福島姉、ピアス姉

グリーター: 井口姉、町田姉

ナーサリー: スタンクリフ姉、本多姉

チルドレンチャーチ: テリケス姉、奏姉

セキュリティー: ウォーカー兄

## 来週、3日の礼拝

司会: 西井兄 奏楽: 大倉姉 通訳: ジュンカー姉

メッセージ: 「私達が今、生きている世界とは?」

賛美: 主の愛が今、新聖歌264

アッシャー: マーシャル姉、ピーターズ姉

グリーター: プロクター姉、ランドール姉

ナーサリー: 石井姉、カーター姉

チルドレンチャーチ: クロセティー姉、アリエル兄

セキュリティー: 畠山兄

## お知らせ

本日の礼拝後の予定

コーヒアワー、Alan & Yurika Sue 宣教報告  
スモールグループ、クリスマス・デコレーション

■今日の礼拝ようこそいらっしゃいました。心より歓迎します。また続けておいでください。

■英語部礼拝の後、クリスマスのデコレーションをします。ご協力をよろしくお願ひします。

■礼拝後に日本で宣教をしておられるスー宣教師より宣教報告をしていただきます。その後にスモールグループに分かれましょう。

■12月10日(日)は午前10時より日英合同礼拝がもたれ、その後にポットラックランチ、クリスマスプログラムをもちます。日語部の方達はディッシュの指定はありませんのでご自由に一品をご持参ください。

■教会のセキュリティーチームは日語部、英語部の礼拝中は(9:00-10:15&10:30-11:30)ブリーズウェイから八尋ホールに通じるドアだけをメインビルディングに通じるドアとして用いることとし、一世ホール、牧師オフィス横のドアは礼拝中には閉めることにしましたのでご了承ください。

■今年の新年聖会はニュージャージー日本語キリスト教会牧師の錦織学師をお招きして2018年1月12日(金)-13日(土)まで持たれます。参加費は二人部屋\$90、一人部屋\$140(登録費、宿泊費、土曜朝食・昼食代込)です。ホテルはまだ決まっておらず、分かり次第、申込書をお配りします。

## 今週の予定

29日(水) 水曜集会 7:30pm-

30日(木) 木曜集会 10:30am-

2日(土) 賛美練習 10:00am-

3日(日) 日語執事会 カレーランチはなし

## 客不恵

『こういうわけで、わたしたちはこのような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから・・・』  
ヘブル12章1節

学生時代に作家を志したこともあるファミリーマート会長の上田準二氏は読書家としても知られ、伊藤忠商事に勤めていた時に度々、驚かされたご自身の体験をこう記しています。

「業務に追われるなかで『あれ、こういう局面は前にも経験してるな』と感じることがしばしばありました。採るべき方策が次々と湧いてくるのです。そうした直観に沿って行動すると、実際、事態は予想通りに進み、幸いにも難を逃れられる。『俺には予知能力があるのか』と訝しんだほどです。そして、このような不思議な能力についてこう分析しています。

「ある時、気がつきました。おそらくそれは過去に読んだ大量の物語がデータベースとして私の頭の中に収まっているのだろうと。それが場面や局面に応じて自然と湧き出てくる。どれだけ時代が進み、技術が進歩しても、文学作品で描かれてきた人間の特質は依然として我々のテーマであり続けています」(プレジデント誌 2010年4月12日号)。

私達が経験できる人生は一つだけです。しかし本を読むことによって私達は無数の人たちの人生に立ち会うことができます。もちろん、それは実際に体験するというものではありませんが、その物語の中で私達は何にも代えがたい知恵を得ることができます。100冊の本を読めば、100通りの人生を知ることができるのです。

ここまで書きまして皆さんに何をお話したいのかお分かりになったと思います。そうです、聖書です。自分の人生という一つの物語だけで物事を判断するのではなく、聖書に記録されている「神と人の物語」は私達に人間とその人間が営む人生の深さ、広さを知る洞察力を与えてくれることでしょう。このことは何にも代えがたい私達の宝になることでしょう。